

キープ・ママ・スマイリング理事長

# 光原 ゆきさん

今回の「ビューティーインタビュー」に登場いただく光原ゆきさんは、入院中の子どもに付き添い看護しているお母さんの笑顔を守りたいとNPO法人「キープ・ママ・スマイリング」を立ち上げました。今その活動は、食事提供から新たな支援策に発展しつつあります。常にパワフルな光原さんの原動力とは？お話をうかがいました。

## 病気の子どもに付き添うお母さんに温かい食事を

### とても過酷な付き添い看護の環境

子どもが長期入院を強いられた時、病院ごとにルールは異なるりますが、小さな子ども

の周りの世話はお母さんがやるもの。病院は人手が足りなくて余裕はないし、付き添いがいないと回らないのが現状です。お母さんは自分を犠牲にして必死で付き添います。

でも、その環境はとても過酷。家族のための食事やベッドなどは考慮されていないのがほとんどで、主食は病院の売店やコンビニ食。夜は狭くてかたいベッドに眠る毎日のため、栄養不足や睡眠不足で体調を崩す人も大勢います。私が運営する「キープ・ママ・スマイリング」は、そんな付き添い看護のお母さんの生活環境をよくするための支援をする団体です。2014年11月に設立しました。

活動の発端は二人の娘の入院でした。一人とも先天性疾患を持って生まれたため、何件もの病院で付き添いを余儀なくされたのです。入院中の子どもは目が離せません。自分のことは後回しで子どもの



「付き添い生活応援パック」には、Tシャツや食器、缶詰などオリジナルグッズも。



1974年生。東京都出身。先天性疾患を持つ娘を亡くした経験からNPO法人キープ・ママ・スマイリングを設立。入院中の子どもに付き添うお母さんたちの生活支援活動に取り組んでいる。  
<https://momsmile.jp/>

面倒をみました。心身ともに疲弊していく中、この環境は改善していけるはず、小児病棟の問題を解決したいと考えはじめました。

次女は治療の甲斐なく、生後わずか11ヶ月で亡くなってしまいました。しばらくは泣いてばかりの毎日でした。でも短い月日だったけれど、娘は役目を終えたから帰ったのではないかと。私に伝えることを伝え切ったから安心して空に戻ったのだと感じるようになったんです。様々な小児病棟事情

を知っている私の経験を誰かの役に立てられたら、娘も喜んでくれるはず。娘が生きていた意味を形にするためにも、付き添い生活を応援する活動をはじめようと思立ちました。

### お母さんの困っていることに寄り添いたい

活動のはじめは、栄養たっぷりの食事の提供。付き添い生活で何よりも嬉しかったのが、温かい食事だったからです。大勢のボランティアや学生さんに協力いただいて、手づくりの食事やお弁当を提供することができました。一流シェフの監修で缶詰やレトルト食品も開発し、地方の病院に配布。全国にこの活動を広げようと意気込んでいました。

でも、新型コロナウイルス感染症拡大で、この活動は大きく舵を切らざるを得なくなり

## 次女が生きた11ヶ月を意味のあるものに



ました。感染防止のため、集まって調理することができなくなりました。一方、付き添い環境はより悪化していました。病棟は面会や付き添いの交代にも制限が広がってしまったのです。買い物すらできなくなったというお母さんの訴えを聞いて、私たちは「付き添い生活応援パック」の無償提供を開始しました。これは様々な日用品を箱に詰めて送るという活動です。支援企業からはたくさんの衣類や食品、化粧品などを提供いただき、また郵送費は一般の方が寄付してくださっています！応援

メッセージも付けてお母さんたちに届けたところ、「自分のことを分かってくれる人がいると知って、心が救われた」「ひとりじゃないと思えた」など、多くの喜びの声が寄せられています。コロナ禍にあっても歩みを止めることなく活動を拡大できていると、嬉しい気持ちでいっぱいです。

お母さんの笑顔が私の原動力です。これからも、お母さんの声をしっかり受け止めながら、今求められている支援をタイムリーにスピーディに提供する活動を続けていきたいと思えます。



Pick up

実は日本茶インストラクターの資格を持つくらい日本茶好き。支援物資だらけのオフィスですが、お気に入りの茶器でスタッフやお客さまに日本茶を振舞っています。忙しい中でも、美味しいお茶でホッとする時間ってとても大切。付き添いママさんたちもお茶をゆっくり楽しむ時間が持てるよう、応援していきたいと思えます。

光原さんの大切にしているもの

①「病気の子どもが早く回復するためには、お母さんの笑顔を守らないといけない！」光原さんの活動の原点にあるのはこの想いです。②たくさんの支援物資が集まるオフィスにて、「付き添い生活応援パック」の箱詰めはスタッフの手作業で。③美味しい食事を届けようと、大勢の仲間が集まりました。もちろんみんなボランティアです。

